

次なる茨木グランドデザイン



次なる茨木グランドデザイン

次なる茨木グランドデザインは「中心市街地活性化基本計画」の推進に向け、茨木市の中心市街地における「まちの将来像＝次なる茨木」の姿を示すとともに、市民、民間、行政など、多様な人々が関わりを持ち、共有、発展させていながら「まちづくり」に取り組んでいくことを目指していきます。

ミッション

都市と自然・文化が共生する
「エリア」をデザインする

各取組を「点」で終わらせることなく
「線」でつなぎ「面」へと波及させる

市民のニーズに呼应し
主体的に活動を行える「場」を創出する

「茨木らしい」幸せ・豊かさを共感できる“まちなか”の実現

みんなと一緒に作りあげていく

次なる茨木グランドデザインでは、多様な人々とともに「まちの将来像」を描きだし、さまざまな活動や体験を推進力にした「まちづくり」を実践していきます。

活動や体験から導き出された成果や課題をフィードバックさせる

完成を目指すというよりも、変化する社会の動向や価値観に対応し、絶えずアップデートを繰り返しながらグランドデザインへとつなげていきます。

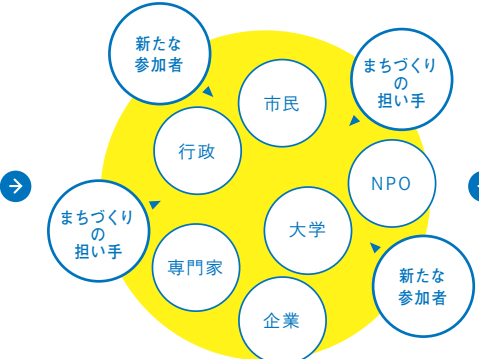
イバラキクラウド

人と人、活動と活動をつなぐ

次なる茨木グランドデザインは、さまざまな社会実験やワークショップなどを通じて多様な主体が出会い、活動が生まれる「場＝中間領域」を創出します。さらに、それらの活動を一過性に終わらせることなく、より深く発展させるためのプラットフォームが「イバラキクラウド」。新たな参加者や担い手の発見を促し、人と人、活動と活動をつなぐネットワークを生み出していきます。



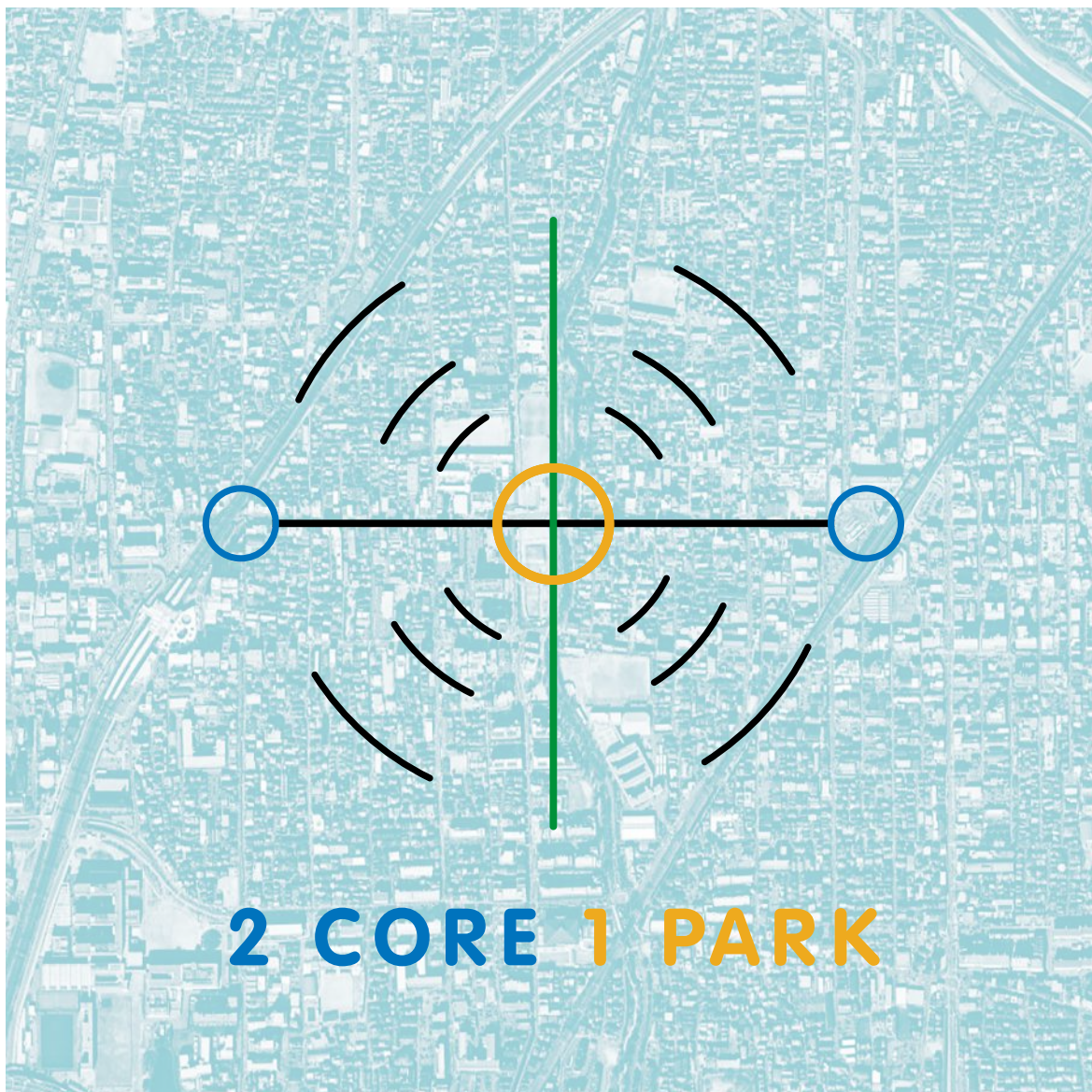
多様な主体の出会いと関わり
↓
活動が生まれる中間領域を形成する



活動をより広く深く発展させる
↓
新たな参加者、担い手の発見など、関係する人々を増やす



活動と活動のネットワークを生み出す
↓
グランドデザインを共有しながら様々な活動がつながっていく



**中心市街地を「2コア1パーク」の
都市構造で捉え、
ランドデザインの骨格を形成していく。**

茨木市の中心市街地は、広域交通のアクセス点である阪急茨木市駅とJR茨木駅が東西に位置し、その中間地点には、市役所をはじめとする行政施設、市民会館跡地エリア、中央公園、そこから南北へ延びる元茨木川緑地には、豊かな自然と文化が醸成されています。茨木市では、両駅周辺のエリアを「コア」、中央の市役所や広場、元茨木川緑地周辺のエリアを「パーク」と位置づけ、「2コア1パーク」による都市構造の実現に向けた、さまざまな事業や取組を推進し、中心市街地の活性化を目指しています。

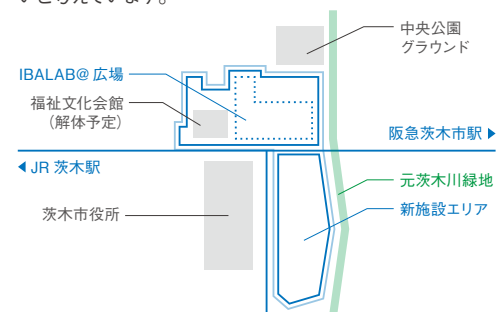
次なる茨木ランドデザインでは、交通の利便性や商業施設による賑わいといった「都市的要素」と緑地・広場での憩いの空間、歴史と触れ合う町並みなどの「自然・文化的要素」を共生させ、新たな連続性を見出し、人々の出会いや活動が生まれる「中間領域」を創出していきます。また、それぞれの場所で起きる変化や更新される出来事を「点」で終わらせることなく、「線」でつなぎ、エリア全体に「面」へと波及させていきます。



まちの真ん中であつたらうれしい場所を みんなと一緒につくる「育てる広場」。

昭和44年の開館以来、市民のみなさんから活用され続けてきた市民会館は、耐震性などの様々な課題により、惜しまれながら平成27年12月に閉館しました。茨木市役所の前、JR茨木駅・阪急茨木市駅のほぼ中央に位置する「茨木市の中心地」という立地です。そこで、単に建物を建て替えるのではなく、広く南グラウンドまでを「市民会館跡地エリア」としてゾーニングし、整備を行うことになりました。

市民会館跡地エリアの構想については、市民会館100人会議や市民アンケートなどを通じて、多くの方々と対話を重ね、「育てる広場」というキーコンセプトが生まれました。多様な人たちが関わりを持ちながら、まちの真ん中であつたらうれしい場所を、みんなと一緒につって行く。その実現に向けて、ワークショップや広場を活用した社会実験など、さまざまな取組みが進んでいます。やってみたいことを実際にやってみる。そのプロセスにおいて導き出される、人と人とのつながり、共有されるアイデアやビジョンを大切に育てていき、茨木の新たなランドマークを創出していきたいと考えています。





IBALAB (イバラボ)

「育てる広場」の具現化に向けて、実際にやってみるという社会実験。

市民会館跡地エリアの整備にあたり、キーコンセプトである「育てる広場」の具現化に向けて「社会実験・IBALAB」を実施しました。元市民会館前の人工台地にフィールドとなる期間限定の芝生広場を設け、そこで、どのような過ごし方や使い方ができるのかを考え、実際にやってみることで、ケーススタディを見出し、さまざまな可能性を検証していくという試みです。芝生広場づくりをはじめ、活用におけるプランニング、コンテンツの立案や運営など、みんなと一緒に実践していきました。



IBALAB plus (イバラボプラス)

IBALABで得られた知見を活かし、「まちなか」に可能性を見出していく。

社会実験期間中の芝生広場では、IBALABのプログラムによるものではなく、普段使いの場所としても、大人から子どもまで、さまざまな使い方や時間の過ごし方を見つけることができました。IBALAB plusは、そのような場を「まちなか」にも展開することができないだろうかという発想から生まれました。みんなと一緒にまちなかを散策しながら、可能性のある空間やスポットを探し出し、その魅力を高め、通りの軒先や道路などで新しい使い方を検証してみようという社会実験です。

常に発見と出会いがある

人とまちとのつながりが広がる空間「おにクル」。

「育てる広場」のシンボルとして、令和5年秋にオープンが予定されている新施設&広場。訪れる目的は一人ひとり違って、常にいろいろな発見や出会いがあり、人やまちとのつながりがゆるやかに広がっていくイメージを「立体的な公園のような空間」として設計に反映しています。やりたいこと・できること・過ごしたいことなど、多様な可能性を見出すために、設計・施工の専門家と市民がワークショップ等を継続的にを行い、みんなが一緒になって「新たな場所」を生み出していきます。



ランドスケープと建築が相互に浸透し合う立体的な公園のような空間となり、各階の機能を縦につなぐ「縦の道」を中心に様々なプログラムが溶け合います。1階には広場や開閉可能な多目的ホールなどがあり、開放的な空間が広がります。2階は子どもの行動に合わせた変化にとんだ空間を、3階はリハーサル室などクリエイティブな交流の場に。4階は市民が使いやすいホール、5～6階には各階の機能をつなぐ図書館が入り、緑に囲まれた最上階（7階）は開放感があり、市民のみなさんの様々な交流を促します。

- H28** ◎市民アンケート
◎市民会館 100人会議
無作為抽出の年代別市民、市民会館利用者、市民団体などと市長が直接意見交換
- H29** ◎基本構想策定
- H30** ◎「育てる広場」ワークショップ
◎社会実験 IBALAB
期間限定の芝生広場と一緒に作り、こたつで過ごす、ひと箱サイズのフリマ、ブラレール広場などさまざまな市民企画を実施
- ◎基本計画策定
- R1** ◎「暫定広場」みんなで育てるワークショップ
◎社会実験 IBALAB plus
通りの軒先や道路、オープンスペースなど、まちなかにある空間を魅力的な場にしてみようという企画として夜市やマーケットなどに挑戦
- R2** ◎新施設&広場の設計施工業者決定、暫定広場整備
◎暫定広場を「IBALAB@広場」としてオープン
◎市内事業者によるマネジメント社会実験
●IBALAB@広場のつかい方を考えるワークショップ
●新施設と広場をつくるワークショップ
- R3** ◎ワークショップ
IBALAB@広場を継続しながら、新施設の使い方や活動を広げていく
今後の展開への反映をさらに推進
◎新施設工事中
- R4** ◎新施設&広場の愛称「おにクル」決定
◎開館準備事業
- R5** ◎新施設オープン(秋予定)
大ホールのみ令和6年予定
◎オープニング市民企画
- R6** ◎IBALAB@広場クローズ
◎福祉文化会館解体、第2期工事中
- R7-8** 市民会館跡地エリア全面オープン



IBALAB@広場 (イバラボ@ひろば)

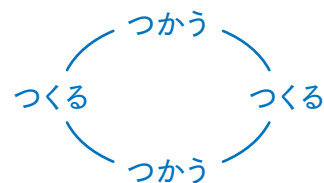
実践的なアプローチを重ねながら、
さらに成長を続けていく「育てる広場」。

平成28年からスタートした「市民会館跡地エリア」の整備については、市民のみなさんから、たくさんの声を聞き、「育てる広場」というキーコンセプトのもと、数々のワークショップをはじめ、実際に広場を活用し、みんなで一緒につくってみる・やってみる・つかってみるという社会実験を行ってきました。IBALAB@広場は、跡地エリアの整備過程で生まれた期間限定広場。「育てる広場」の実現に向けて、さらなる可能性の追求と実践的なアプローチを重ね、人と人のつながりを生み出していくためのフィールドづくりを目指します。

IBALAB@広場は、利用者自身が実際に使いながら「つくる側」になって育てていく「ハーフメイド」という考え方を取り入れた実験的な「場」でもあります。ここでは、禁止事項から考えるのではなく、まずは、やりたいことを考えます。つかってみてを繰り返しながら、そこで培われた経験値をもとに、ルールや設備をアップデートしていきます。

IBALAB@広場で
カフェの運営とさまざまな企画で、
広場の魅力を生み出す社会実験。

IBALAB@広場では、防災倉庫の一部を使って、カフェが運営されています。ここでは、ランチやコーヒーといった飲食を提供しながら、備品の貸し出しなどを行ったり、さまざまな自主企画を実施していきます。イベントやマルシェに参加したり、のんびりとお茶やおしゃべりをしたり、広場に「にぎわい」だけではなく、「憩い」や「出会い」といったさまざまなシーンを生み出すための拠点としての役割を担っています。



（ ハーフメイドの広場 ）

完成させるのではなく、みんなが育てていく

どんなものがよいか、
どんなデザインが大切かを
設計につなげていく

禁止事項を設けるのではなく
「できること」を続けていける
ルールを考える



イバラキクラウドにおけるチーム形成 ～多様な活動と「場」の創出



考える・生み出す場
ワークショップの実施

学ぶ・実践する場
官学連携・勉強会の実施

交流する・賑わう場
アートイベントの実施・非日常空間の創出

One Art Project



都市におけるアートのあり方を再構築し、
グランドデザインの可能性を導き出す。

2018年に開業したJR総持寺駅の自由通路壁面を利用したアートプロジェクト「SOU」は、駅の公共の場を使って、利用者や地域の人たちにアートを身近に感じてもらい、新たな感受性を生み出し、育むことを目指しています。平面作品を大版プリントに拡大した展示を継続的に取り組んでいます。また、「SOU」の実作品を紹介する展覧会「real SOU」では、茨木市中心部の空き店舗を展示場所として利用し、街中でのアートのあり方、空き家などの活用・再生についての提案を行っています。その試みとして、阪急本通商店街の北にある元公設市場、阪急茨木市駅前ソシオにて開催されました。これらを主催する「One Art Project」は、市民会館の取り壊しに伴い、設置された工事仮設壁面を利用したプロジェクト「cacoiba」を展開するなど、茨木市のアートシーンにおいて欠かせない存在。アートの活用によるグランドデザインの可能性を、これからも一緒に追求していきたいと思えます。

One Art Project

茨木市で、アートプロジェクトの企画運営を行う。他にも展覧会企画やワークショップの開催、講演など、芸術文化的活動の提供とその社会的意義の理解促進及び実践と芸術文化によるまちづくりを目的とし、美術表現活動と美術教育の観点からアートと地域を多面的に繋げる活動を行う。

Locaco Project



DIYの視点から「まちづくり」を目指し、
地域への想いをカタチにしていく。

DIY、リノベーションの視点から、市民参加による「自分たちの手で創造性豊かなまちづくり」を目指し、「DIYでつながる」というコンセプトのもと、阪急本通商店街にあるDIY工房「リノベのいばらき」を拠点として活動を続ける「Locaco Project」。行政課題でもある空き家・空き店舗の相談窓口として「空き家活用促進プラットフォーム」を発足し、オーナーと利用者のマッチングやリノベーションのサポートをはじめ、課題解決に向けたセミナーなどを積極的に行っています。また、IBALAB@広場にて、子どもたちが店長になって、自分でつくったアクセサリーなどを販売する「こどいち」を開催したり、DIY初心者女子が様々なDIYに挑戦する「D.GIRLSプロジェクト」や、みんなと一緒にブランターをつくり、花やハーブを寄せ植えするワークショップを実践するなど、「DIY=自分自身でやること」を通じて、地域への想いをカタチにし、さらに、人と人との新たな出会いを生み出しています。

Locaco Project

Locaco=Local community:地域で支え合い、住民参加のまちづくりを行う」というテーマのもと、DIYリノベーションや空家活用、まちと人をつなぐイベントなど、各種プロジェクトを多様な主体の参加のもと実践している。

Open Space Society



大学との連携を深め、
公共空間の「新たな価値創出」を目指す。

次なる茨木グランドデザインでは、立命館大学OICオープンスペース研究会と連携し、公共空間の活用方法やマネジメントについての研究をはじめ、産官学民による協働モデルを構築するための多様な取り組みを推進しています。都市と公園のあり方、元茨木川緑地のリ・デザインに関する講習会やワークショップなどに参画。また、立命館大学とオーストラリア・モナシュ大学が共催した「屋台祭り」では、阪急本通商店街をフィールドに、学生たちが、斬新な発想と創造性の高い「屋台」を各所に生み出し、建築デザインによるアプローチから商店街の新たな可能性を導き出す試みを実践。さらに、中心市街地における地域社会の資源や課題、都市環境や生活空間の在り方を、人や自然とのつながりから考え、学生たちによるデザインスタジオを経て、作品のプレゼンテーションが行われました。自由かつドラスティックな思考が盛り込まれており、貴重なアイデアを受け取ることができました。

Open Space Society

平成27年のOIC(大阪いばらきキャンパス)開設を契機に、キャンパスや岩倉公園など、オープンスペースのマネジメントや活用方法を研究するために発足。先駆的取組の勉強会やイベントの実施、茨木市中心市街地をフィールドにした、オープンスペースの活用実践を通じて、産官学民の連携による新たな価値創出の取組を進めている。



茨木市 都市整備部 都市政策課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13

電話：072 (620) 1660 メール：toshi@city.ibaraki.lg.jp



次なる
茨木へ。

